

研究テーマ「道徳の評価」

～児童が自らの成長を実感できる評価活動のあり方～

呉市立呉中央小学校

はじめに

平成 28 年 7 月、「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」から『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」が示された。道徳の時間の教科化に向け、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、どのように記述していくかを適切に考えることが急務の課題となっている。

1 研究内容

児童一人一人が、自らの成長を実感できる道徳科の評価活動はどのようにすればよいのか。

2 実践

本校では、道徳教育の評価活動の基本的な考え方として、「道徳の時間の評価」と「教育活動全体における道徳教育の評価」に分けて捉えている。

(1) 道徳科における評価

【評価の観点】

- ・ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めているか。
- ・ 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めているか。
- ・ 学習状況（関心・意欲・態度）はどうであったか。

【評価の方法】

- ・ 授業の最後にこの時間で学んだことを記述させ、「道徳的価値の理解」と「自分を見つめ自己の生き方についての考えを深めたか」という観点で評価する。（「ハート貯金箱」）
- ・ 授業の最後に、自分の学びについて3段階で自己評価をさせ、学習状況を把握する。
- ・ 話し合いにおける児童の様子について、行動観察を行う。

**ワークシート表面**

今日の学習をふり返って、考えたことを書きましょう。

ハート貯金箱

ワークシート裏面

学習態度の自己評価

今日の学習をふり返って、考えたことを書きましょう。

教師の評価

道徳の時間にみんなで話し合うことを通して、友達に対する自分の態度を振り返って考えることができた。また、自分の生命は遠い先代から受け継がれてきたものであることに気づき、自分自身の命のつながりや尊さについて考えることができた。

(2) 教育活動全体における道徳教育の評価

【評価の観点】

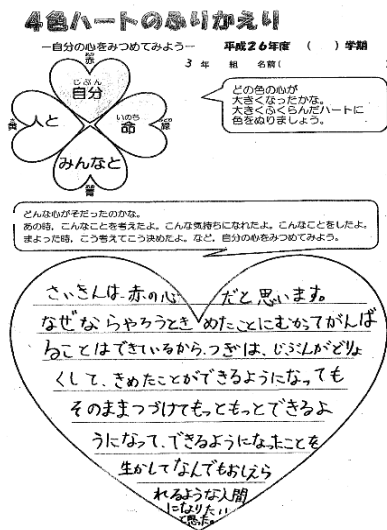
- ・ 児童一人一人の成長の様子
- ・ 児童自身のよりよい生き方を求めていこうとする努力

【評価の方法】

- ・ 週に1回朝の時間に「道徳タイム」を設け、ワークシートの裏面に、「道徳の時間」で学んだことを、その後の自分の生活と結び付けて考え、気づきや思いを書かせる。（「ハートをふくらませよう」）
- ・ 学期末に自分自身を振り返らせ、「どんな心が育ったと思うか」「どんなことを考えたか」などについて書かせる。（「4色ハートのふりかえり」）
- ・ 学期に1回、ねらいとする道徳的価値に係る教科・領域や体験活動と道徳科との関連とを有機的に関連させた「道徳学習プログラム」を実施し、その都度、児童が考えたことを「個人用学習シート」に書かせる。

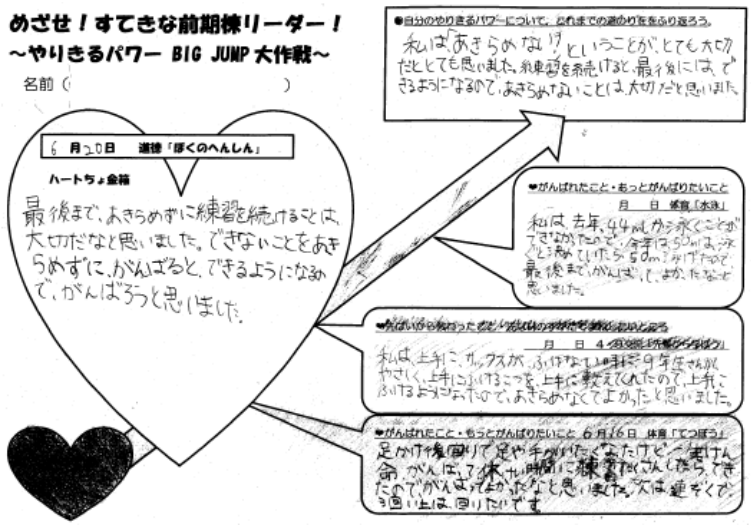
【評価の実際】

○4色ハートのふりかえり



「4色ハートのふりかえり」による見取り  
道徳の時間に学んだことを振り返る中で、自分の心の成長を感じている。今の自分の姿を見つめるとともに、これからこうありたいという姿を思い浮かべ、それに向けて努力していこうという気持ちをもつことができた。

○道徳学習プログラムの個人用学習シート



「個人用学習シート」による見取り  
道徳の時間に、最後まであきらめないで頑張ることの大切さに気付くことができた。それをきっかけに、鉄棒の足かけ後ろ回りや水泳でも、あきらめない気持ちを強くもって頑張ることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 児童一人一人が、自分の心の成長に気付くことができた。
- ・ 組織的に取組を進めることにより、評価の視点について教職員が共通認識をもつことができた。

(2) 課題

- ・ 今後、評価の観点を吟味したり、評価事例を検討したりして、さらに評価の妥当性・信頼性を高めていきたいと考えている。

おわりに

児童の道徳性に係る評価は、児童の人格や人間性に関わるものであることから、より慎重に行わなければならない。今後も、これらの取組が「評価」のための取組ではなく、「児童のよさに目を向け、人間的な成長を見守る」ための手段であるということを全教職員が共通理解しておくことが大切であると考えている。